左から、川越市文化財保護審議会委員・馬場弘さん、川越氷川神社宮司・山田禎久さん、川合善明川越市長、小江戸川越観光協会会長・粂原恒久さん、小江戸川越観光親善大使・龍神由美さん
後ろの甲冑は、川越城最後の藩主を務めた松平周防守家の2代目・松平康重所用のもの（市立博物館蔵）

「川越まつり」を考える

市制施行九十周年を迎えた今年は、さまざまな記念事業が予定されています。市内最大の祭りである「川越まつり」は、中でも重要な催しの一つです。今年の「川越まつり」が九十周年を祝うのにふさわしく、盛大に開催できるよう、また市民の皆さんにも、もっと「川越まつり」について理解を深めていただくため、川越城本丸御殿の大広間に関係者が集まり、自由に語っていただきました。

＊本文中は敬称を省略しています。

●文化財としての「川越まつり」

川合善明川越市長

今年は市制施行九十周年ですので、多くの山車にご参加いただき、川越まつりを盛大に開催できればと願っています。また、今の川越まつりは、川越氷川祭が発祥だということを改めて市民の皆さんにも知っていただきたいと考えています。

初歩的な質問ですが、重要無形民俗文化財に指定されているのは全ての行事を含んでいる、ということでしょうか。

山田禎久川越氷川神社宮司

重要無形民俗文化財に指定された範囲は、氷川神社の神幸祭に供奉する形で発展した山車行事の部分だと思います。実際には「川越氷川祭の山車行事保存会」（会長・笠原啓一さん）という団体が、「川越氷川祭の山車行事」の保護団体になっています。ただし、その範囲は氷川神社の氏子区域であって、全市的な「川越まつり」が国の指定を受けたものではないのです。

馬場弘川越市文化財保護審議会委員

山車が神幸祭に供奉するのですから、山車を出すためには神幸祭がなくてはならないのです。そうすると、必然的に神幸祭も文化財の範囲に入

ってくるのではないでしょうか。

山田　祭り、というものは神様を中心とした宗教的な祭りと、町の人たちが中心となる祭礼とがあります。現代は、神事を中心とした祭りという言葉と、イベントという言葉を混同しているのではないでしょうか。イベントは、毎年趣向を凝らして工夫していかないと飽きられてしまう、マンネリ化してしまうものですが、祭りは全く逆です。百年経っても変えないでいる、変わらないものであることだと思います。

氷川神社の神幸祭の列に続くものは、踊り屋台があったり、仮装行列があったりと、その時代時代の趣を取り入れていました。でも、神幸祭の行列は変わらなかった。いま一度、変えていっていいものと絶対変えてはいけないものとを整理しなくてはならないと思います。

今日、本丸御殿でこういう会を持てたということは、とても感慨深いものがあります。川越城の城主が氷川神社の秋祭りに祭礼道具を寄進して始まったのが、川越氷川祭です。正にその原点にある本丸御殿でこうした場が持てるのは意味があると思います。市制施行九十周年という節目に、これからの祭りを考える上で大事な場であると思います。

市長　氷川神社の境内で行っている祭りを公開はしていないのですか。

山田　例大祭を公開していますし、取材にも応じています。

秋の祭りは稲の収穫に感謝をするものです。田んぼというのは隣の田んぼが凶作で自分の田んぼだけが豊作ということはあり得ません。地域全部が豊作なり凶作なりということを共有するのです。ですから祭りは地域全体のものなのです。

●神事と市民まつり

粂原恒久小江戸川越観光協会会長

元々川越まつりは川越氷川祭と一体のものでした。10月14日と15日という開催日にはそういった意味がありました。しかし、平成9年からはさまざまな事情から10月の第三土・日曜日に変わりましたよね。

山田宮司さんは、神事と市民祭りとしての「川越まつり」の日程がずれていることについて、どうお感じになっていますか。

山田　10月14日、15日という日付は氷川神社創建の日です。神社の宮司として答えさせていただければ、今生きている我々の意見だけで祭礼の日程を変えられるものではない、と思っています。

しかし、祭りはどういう要素で構成されているのか、ということを考えますと、大事なのはその地域に住んでいる人たちの交流の場でもあるということです。例えば神幸祭は、御神輿に乗った神様が町中に出て行って町の様子をご覧になる、ということですから、町内で迎える体制を整えることが大事です。それが時代とともに位置付けが変わってくるのは致し方のない面があります。しかし、御神輿が町中に出て、その後ろに山車がついて行く、という祭礼の根本的な形は、時代が変わっても忘れてはいけないことだと思います。

龍神由美小江戸川越観光親善大使

祭りの日程が14日、15日から変更になったことは、働いている人にとっては参加しやすくなったと思います。しかし、ずっと続いてきた、変えてはいけないという意味では残念に思います。

また、私の通っていた第一小学校、第一中学校では、山車のある町内と山車のない町内が混在していました。山車のある町内の子は、一時限

■川越氷川祭の山車行事とは

川越まつりのルーツが川越氷川祭です。慶安元年(1648)、当時の川越藩主・松平伊豆守信綱が氷川神社の秋の例大祭に神輿・獅子頭・太鼓などを寄進し、祭りを奨励したことが始まりとされる川越氷川祭。慶安4年(1651)から、華麗な行列が氏子域の町々を巡行し、町衆も随行するようになったのが山車行事で、江戸の天下祭の影響を強く受けているといわれています。平成17年2月21日、「川越氷川祭の山車行事」として国の重要無形民俗文化財に指定されました。

だけ授業に出席して、あとは帰って良かったのに、山車のない町内の子は半日勉強しなくてはならなくて、とても悔しい思いをしました。祭りは本来自ら参加して楽しむものです。現在は、見てもらうための祭りになりつつあって、自分たちの、川越の人のための祭りではなくなりつつあると感じています。

市長　今年は10月14日が日曜日、15日が月曜日です。山車運行は20日、21日になるそうですが、川越氷川祭は七日間になるのですか。

山田　神社としては、あくまで14日が例大祭、15日が神幸祭という意識があります。例えば神幸祭が20日にずれたとしても、実際には15日の朝、本来ならば巡幸に出ていただく神様に対して報告をする祭りを欠かさず行っています。15日をずらして土曜日に動かしている、という認識は氷川神社にはないのです。

馬場　その一週間を祭りにしても良いと思います。いろいろな行事がありますから、一週間のスケジュールを作っても良いと思います。

市長　行政や「川越まつり協賛会」が、経済効果とか観光客の数を増やすとか、そういう方に力点が移ってしまう、目的がシフトしてしまうことは、止むを得ないと思います。しかし、根本的な所はちゃんと踏まえておくことが大切なのでしょうね。

●伝統と継承

市長　時代とともに変わってきているという面では、山車を組み立てる技術や、山車を運行するための技術について、職人、とりわけ鳶職などの仕事をどう継承していくのか、なかなか難しい面もあるようですが。

馬場　各町内に何人かはちゃんと分かる人がいるのですが、あとは経験の少ない人が多いのです。特に今年は市制施行九十周年で、全部の山車を出すとなると、職人は足りなくなるわけです。初めての人には二～三回講習を受けた上でやってもらわないと、安全面と山車の維持の面で心配です。

市長　町内の人を育成し、伝えていくというのはどうですか。伝統を守るためにも、職人の問題についてさまざまな方法を考えないといけませんね。

粂原　伝統は、曳っかわせにもあるんですよ。林家に伝わる文書で、文化十一年（一八四八）の祭礼執行に当たっての町方の記録によると、町同士の申し合わせの中に、屋台がすれ違う際には囃子をするという記述があります。これが「曳っかわせ」の原型といわれています。

私が子どものころは、互いの山車を曳いている若衆がちょうちんを持ってはやし立て、その大きな声に惑わされてリズムが狂った方が道を譲るという風習がちゃんとありました。だから曳っかわせは「川越まつり」の伝統なのです。昔はちゃんと判断する人がいて、勝った方がワーっと気勢を上げたのです。

馬場　今は形式化してしまって、曳っかわせの時にリズムを崩した、と判断できる人がいないのです。

●安全な祭りであるために

馬場　昨年は、規制が厳しかった印象があります。

龍神　あまり厳しいと「粋」とは言えなくなってしまいます。

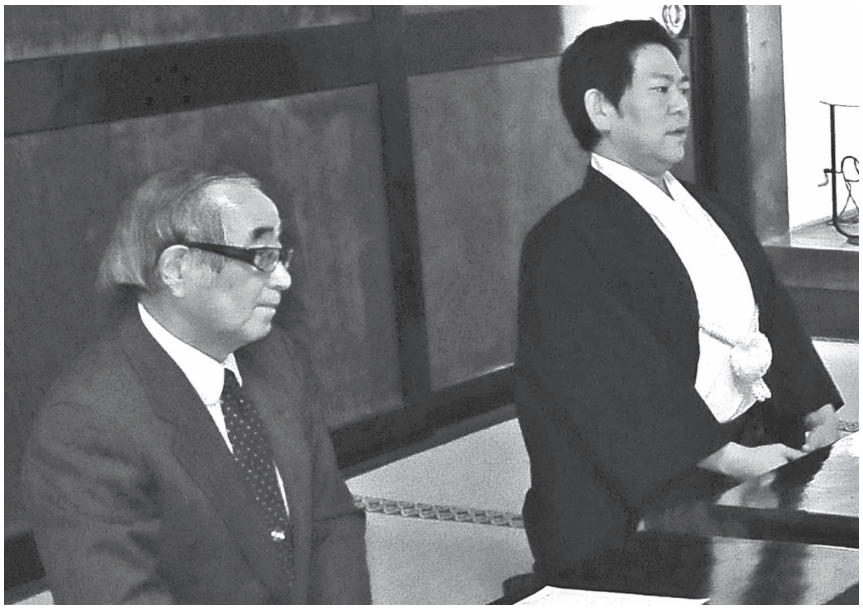
馬場　こういう時には「川越まつり」が、重要無形民俗文化財として国から認められているものなのだということを、もっと前面に打ち出してくれるとありがたいのですが。

粂原　祭礼は、天地の恵みに感謝したり、無病息災を願ったりする中で、互いに親交を深めあったり、ぶつかりあったりする、自由なエネルギーの発散の場でもあったのです。安全の範囲内で、ある程度自由にしてもよい部分だと思います。

馬場　祭りなのですから、自分で気を付けて、自分でちゃんと動きなさい、ということです。祭りに参加する際には、なるべく他人に迷惑をかけず、自分の責任で動かなくてはいけないという意味で、昔から「けがと弁当は自分持ち」といわれていました。また、各町内の頭は警備や運行にも責任を持つものなのです。

市長　各町内は交差点に入って来るときに責任者同士が話し合っていますよね。それで調整をするのですが、そういうことを信頼しないと祭りが成り立たないです。

馬場　安全を図るため、「川越まつり協賛会」から各町内に、運行管理をきちんとしてほしいという要請を改めて出した方が良いのではないでしょうか。警備に任せるだけではいけないと思います。



●市制施行九十周年を祝う

馬場　市制施行九十周年を契機に、例えば百周年に向かって、より良い祭りにしていくためにはどのようにしたらいいのでしょうか。

山田　私は神主ですので、神事や歴史的なものに関しては思いが強いです。しかし、これから市制施行百周年、百五十周年と進んでいく中で、バランスをどう取っていくのかが将来的には大事になっていくと思います。

今回東日本大震災が起きたあと、全国的に祭りを自粛する動きがありました。しかし、川越氷川祭も、松平信綱（まつだいらのぶつな）が川越の城主として来る直前に川越の大火があって、町がすべて焼けてしまったのです。その中を松平信綱が城下の町割りを整えて、祭りを始めたのです。

祭りを盛大に行うことによって、この地域の共同体が更に結束して、より豊かな明日があるのだと。そして祭りの場で考えるのは個人の幸せではなくて、あくまで地域の繁栄を考えるのだと。祭りの意味合いをもう一度理解したうえで、盛大に行うことが被災地を励ますことにも通じるのです。

「川越まつり」は川越人の誇りです。祭りのさまざまな要素のバランスを取りながら、これからを考えていく必要があると思います。

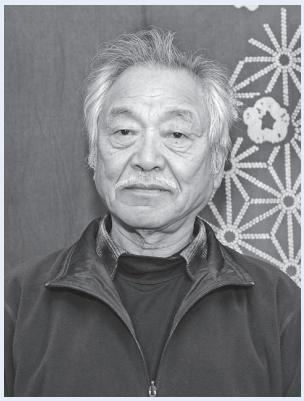
龍神　今年は市役所の所に山車が集まるのですか。人も山車もあれだけ集まると大変ですよね。

馬場　集まり方と、やはり仕切りですね。昔からずっとやっているのですから、多少の不便があっても、皆さんの合意で、こういう風にしようという話ができればいいと思います。大変だからやらない、というのはおかしいです。楽しいことやいいことは大変でもやりましょう、というのが本来です。

市長　今年の「川越まつり」は、市民の皆さんが参加する市制施行九十周年記念事業の中でもメインとなるものです。十年に一度の機会ですから、ぜひにぎやかに、盛大になるよう願っています。どうか皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

安全で楽しいお祭りに

川越氷川祭の山車行事保存会会長・笠原啓一（かさはらけいいち）さん



国指定重要無形民俗文化財「川越氷川祭の山車行事」には、すべてが含まれると思います。つまり、山車や囃子だけでなく、祭りのさまざまな準備や衣装なども立派な文化財であると考えています。お年寄りから子どもまで、そろいの着物に身を包み、優雅に山車を曳き回すのが川越まつり。神幸祭や仕舞いの囃子など、守るべき伝統は守りつつ、町内だけでなく見に来た人にも満足してもらえる工夫が必要です。

安全で楽しいお祭りにするために「ここにいればすべての山車が見られる」という場所ができると良いと思います。また、時間がかかっても一つ一つ丁寧に行うことも大切です。川越まつりをより良くするため、山車を持つ町内・鳶職・囃子の皆さんなどと今後も協力していきたいですね。